

第14回科学隣接領域研究会 (2020.10.5)

科学と芸術 –その4–

テーマ：科学と音楽の邂逅 ベートーヴェン生誕 250 年を祝して

「言語脳科学と音楽の接点」

「ベートーヴェンはなぜすごいのか」



第14回科学隣接領域研究会について

日時：2020年10月5日（月）18：00～21：00（Web会議：Zoom使用）

参加者（敬称略）

科学隣接領域研究会	リーダー	金子 務（大阪府立大学 名誉教授）
	サブリーダー	酒井 邦嘉（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
	メンバー	岡本 拓司（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
	〃	外山 紀久子（埼玉大学大学院人文社会科学研究科 教授）
	〃	梅干野 晁（東京工業大学 名誉教授/放送大学 客員教授）
	〃	前田 富士男（慶應義塾大学 名誉教授）
特別講師		正木 晁（元慶應義塾大学文学部 非常勤講師）
事務局		曾我 大介（東京ニューシティ管弦楽団正指揮者）
		堀籠 美枝子

資料

次第、研究会メンバーリスト、酒井先生資料、曾我先生資料

内容

- ・金子先生のご挨拶
- ・酒井先生と曾我先生のご講義と質疑応答

第4回目となる「科学と芸術」研究会では、研究会サブリーダーの酒井先生（東京大学大学院総合文化研究科 教授）と、特別講師として曾我 大介先生（東京ニューシティ管弦楽団正指揮者）が「科学と音楽の邂逅—ベートーヴェン生誕 250 年を祝して—」というテーマでそれぞれのご専門分野のご講義をされました。

前半は、ご専門が言語脳科学の酒井先生が「言語脳科学と音楽の接点」という題でご講義されました。

音楽と言語にはその構造からして深い共通性があり、人間の再帰的能力（フラクタル性）に基づいています。チョムスキーの提唱する普遍文法から、音楽と言語の根幹について解説され、音楽を科学的探究の対象としてメタ的な視点から人間に特異的な創造性がどのように生じるかについてご講義されました。

後半は、指揮者・作曲家の曾我先生が「ベートーヴェンはなぜすごいのか」という題でご講義されました。

ベートーヴェンの創作力に焦点を当てながらどのような要因や動機によって実際の作品が作られたかを紹介されました。ベートーヴェンの出現により音楽の意味合いは「手仕事」から「芸術」昇華しました。しかし彼の創造は新奇ではなく、①音楽家としての高度な能力の取得、②過去作品の徹底的な研究、③哲学や思想の作品への反映、④同時代の音楽、⑤新発明の楽器、⑥時代の潮流に目を向ける、⑦独立音楽家として生きるための経済的環境整備の上で成り立っていると紐解かれ、ベートーヴェンの偉大さと普遍性、天才の想像力についてご講義されました。

- ・研究会メンバーからの質疑応答・感想等

※ 講義内容の詳細や質疑応答、研究会メンバーからの感想などは別冊をご覧ください。

・事務連絡

(1) 今後の研究会等について

新型コロナ感染症の感染リスクを考慮して、今後の研究会についても、Web で開催する方針。

第 15 回 11/9 (月) 17 : 00 ~ 20 : 00

第 16 回 11/26 (木) 17 : 00 ~ 20 : 00

(2) 研究会感想提出について

第 14 回研究会のご意見・感想を 400 文字程度 (10/12 (月) まで)。後日 Web サイト公開予定。

(3) 研究会文字起こしについて

第 14 回研究会の文字起こし修正ご協力をお願い。

以上